



地域密着型金融の取り組み
～平成27年度中間期の進捗状況について～

SHIGA BANK

目次

- ・地域密着型金融の推進に関する基本方針 P.1
- ・CSR憲章(経営理念) P.2
- ・地方創生「地域経済への更なる貢献」 P.3 ~ P.5
に関する取り組み
- ・「事業性評価」に関する取り組み P.6 ~ P.8
- ・「3つのブランド戦略」に関する取り組み P.9 ~ P.16
- ・地域密着型金融の推進の数値目標および実績 P.17

地域密着型金融の推進に関する基本方針

地方銀行は地域社会と歩みをともにしており、地域の成長なくして当行の成長はありません。

私たちの使命は「地域社会の未来」を見すえた銀行経営を通じて、CSR憲章にかかげる「共存共栄」を実現していくことです。その実現のために、当行はこれからの10年を展望したあるべき姿を『お客さま・地域とともに未来へ歩む銀行』とし、その第一ステージとして第5次長期経営計画(平成25年4月～平成28年3月)に挑み、その推進を通じて地域密着型金融の推進を図ってまいります。

具体的には、当行独自の「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」(「ネットワークのしがぎん」「アジアに強いしがぎん」「CSRのしがぎん」)の実践に取り組み、また3つの視点(「お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮」「地域の面的再生への積極的な参画(地域経済への更なる貢献)」「地域やお客さまに対する積極的な情報発信」)を踏まえて地域密着型金融の推進に取り組んでまいります。

CSR憲章(経営理念)

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

(地域社会との共存共栄)

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

(役職員との共存共栄)

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

(地球環境との共存共栄)

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(1)

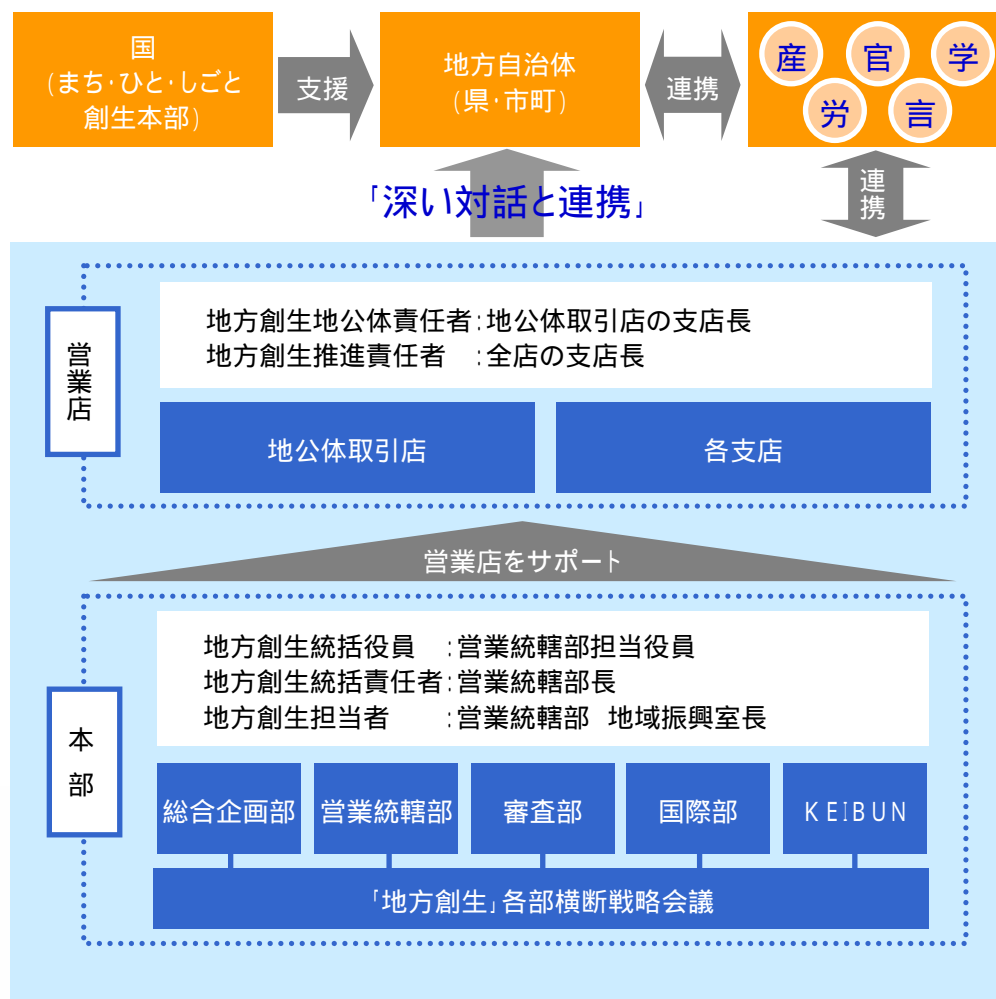
地方版総合戦略の策定に協力、施策を推進

- ・平成26年11月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」は、地方公共団体へ地方版総合戦略の策定を求めています。
- ・当行は、地域金融機関として、同戦略の策定ならびに円滑な施策の実施等について積極的に参画し、情報提供・分析・提案等の協力をを行い、人口減少社会を見据えた地方創生に貢献してまいります。

地方創生に関する当行の方針

- ① 県や市町が策定する地方版総合戦略の策定について、積極的に参画し、当行が持つ知見などに基づく情報提供・分析・提案等の協力をを行う。
- ② 国の総合戦略や地方版総合戦略の策定にあたって、産官学金労言の連携の下、積極的に取り組みするとともに、各個別施策について、当行が持つ知見等を活かした機能を積極的に発揮する。
- ③ 地域資源を活用した事業化、生産性の向上、再出発に向けた環境整備等の課題について、官民ファンドなどの連携を通じて、地域における金融機能の高度化を図っていく。

滋賀銀行「まち・ひと・しごと創生」取組態勢



地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(2)

地域活性化に資するお取引先の事業化や事業拡大のお手伝い

地域経済イノベーションサイクルへの取り組み

- ・地域活性化に資する事業の立ち上げを行う民間事業者に対し、地域金融機関からの「融資」と、国・地方自治体からの「補助金」(地域経済循環創造事業交付金)によって、事業化を促進するものです。

スキー場で賑わいを創出!!

奥伊吹スキー場を運営する奥伊吹観光株式会社様はセンターハウスを新設。「雪深い」というハンデを逆に味方に付け、経済効果や地元雇用の増大に大きく貢献されました。



「酒粕チーズケーキ」を地域の新たなブランドに!!

社会福祉法人あゆみ福祉会様は知的障がいがある利用者の自立を目指し、「お父さんが喜ぶスイーツ」というコンセプトで、県内6つの酒蔵の酒粕を使った「湖のくに生チーズケーキ」を開発。生産販売施設を新設されました。



クラウドファンディングへの取り組み

- ・クラウドファンディングの手法を活用し、地域ブランドの魅力向上や地域資源を利用した新商品・サービスの提供に取り組む事業者のサポートを行っています。

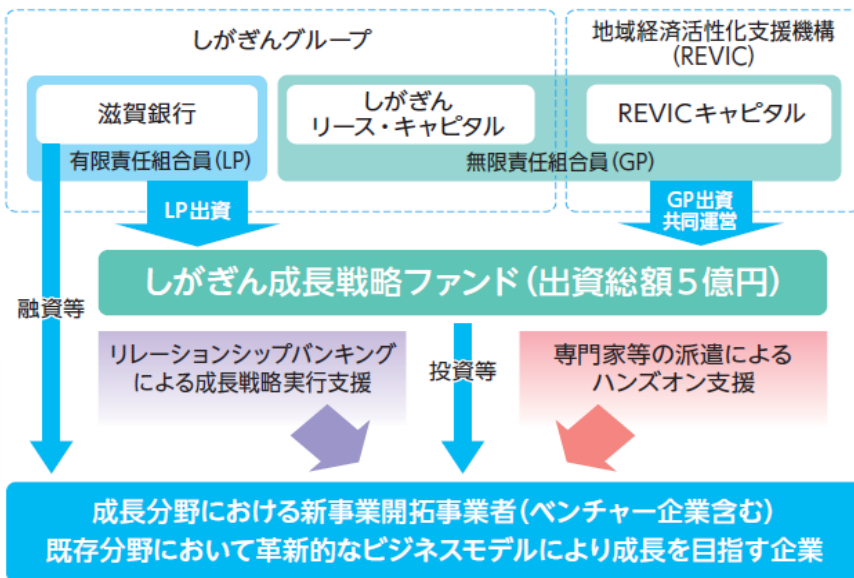


地方創生「地域経済への更なる貢献」に関する取り組み(3)

地域活性化に資するお取引先の事業化や事業拡大のお手伝い

地域経済活性化支援機構との連携ファンド

- 平成26年4月に地域経済活性化支援機構と「しがぎん成長戦略ファンド」を設立し、これまでに4社への出資を実行（平成27年9月末時点）。ベンチャー企業を含む中小・中堅企業への出資や、成長のためのハンズオン支援によって投資先企業の企業価値向上を目指しています。



しが6次産業化ファンド

- 平成26年9月に滋賀中央信用金庫、長浜信用金庫、湖東信用金庫、滋賀県信用組合、農林漁業成長産業化支援機構と共同で「しが農林漁業成長産業化投資事業有限責任組合」を設立（総額5億円）。10月には「しが6次産業化ファンドセミナー」を開催。6次産業化事業体への出資を通じて、新たな加工や流通につながる農林漁業の生産性向上等に向けたサポートを行っています。



アグリビジネスローン

- 平成26年5月に滋賀県農業信用基金協会の保証付融資「アグリビジネスローン」の取り扱いを開始。資金需要に幅広く対応しています。これまでに79件のご利用をいただいております。（平成27年9月末時点）。

「事業性評価」に関する取り組み(1)

「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします

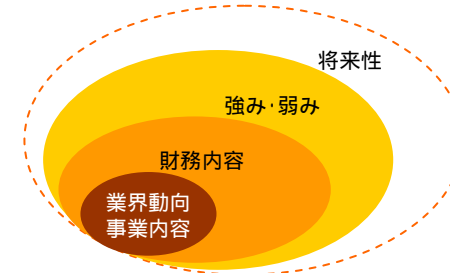
「事業性評価」とは、『お客さまとの日常のコミュニケーションを大切に、業界動向や事業内容を分析した上で、その将来性を評価すること』を指しています。

当行は、担保・保証に必要以上に依存せず「事業性評価」に基づく融資に積極的に取り組んでいきます。

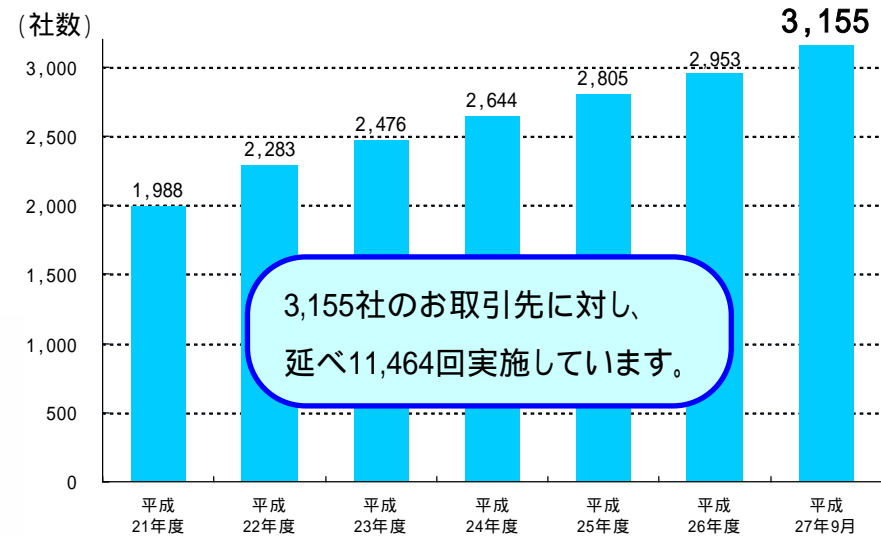
格付コミュニケーション・サービス

- ・このサービスは「企業格付」をお客さまと当行をつなぐ合理的なコミュニケーションツールと位置付け、平成19年8月にスタートしました。
- ・平成27年9月の書式改正では、これまでの格付プロセスを通じて把握したお客さまの「強み」、「弱み」の共有に加え、それぞれのお客さまの業界動向や事業内容、更にはまだ決算書には現れていない現在の取り組みについても対話を深めるツールへと発展させています。
- ・財務ばかりでなく、お客さまの事業にも真剣に向き合い、永続的な経営基盤の構築や企業価値向上を目指してサポートしていきます。

コミュニケーションイメージ



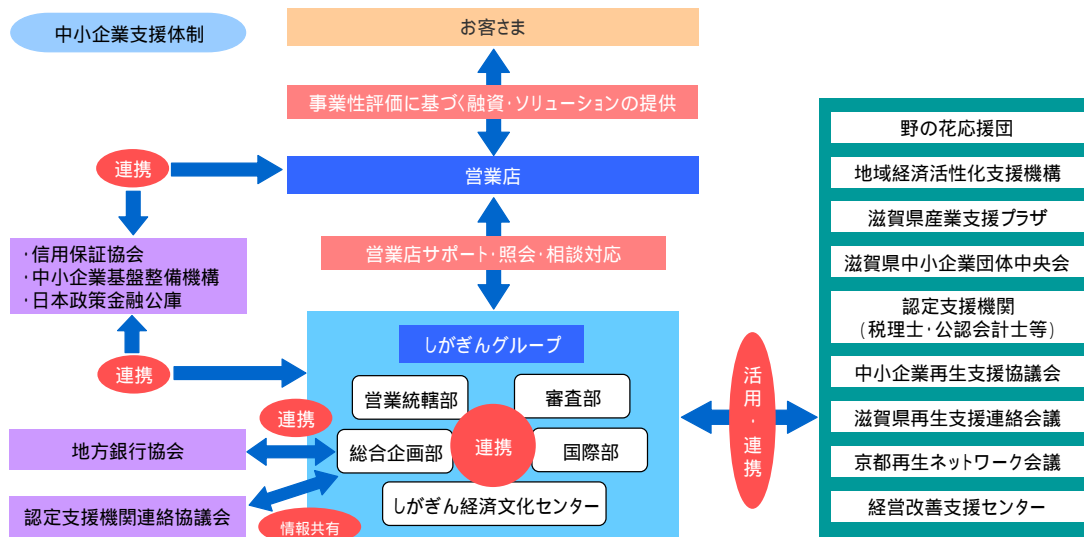
格付コミュニケーション・サービスの実施先累計



「事業性評価」に関する取り組み(2)

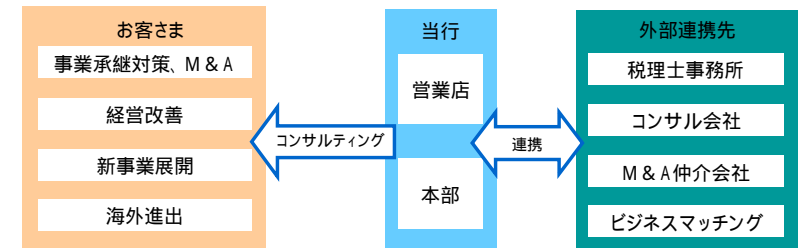
「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします

お客さまのバックアップ体制

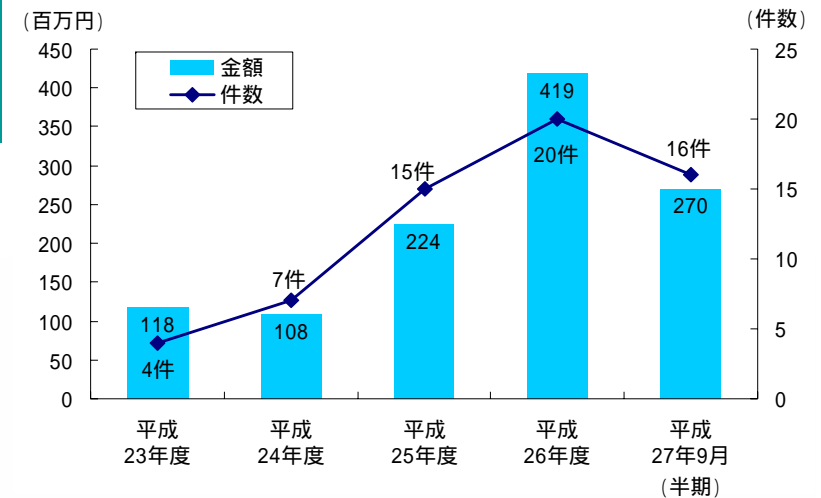


・ 営業店と営業統轄部、審査部、総合企画部、国際部、(株)しがぎん経済文化センターが連携し、お客さまのご要望や経営状況に応じた「事業支援」ならびに「経営改善支援」に積極的に取り組んでいます。

コンサルティング機能の提供



ニュービジネスサポート資金実行実績(単年度)



「事業性評価」に関する取り組み(3)

「事業性評価」への取り組みを進め、お客さまの成長をサポートします

経営者保証ガイドラインへの取り組みについて

- 「経営者保証に関するガイドライン」への取り組みにあたっては、金融円滑化の基本方針を定めた「金融円滑化管理方針」において、「経営者保証に関するガイドライン」を尊重・遵守し、適切に対応していく旨を定め、経営者保証に依存しないご融資の促進に努めてまいりました。
- 引き続き、お客さまとの保証契約の締結や保証債務の整理等には、「経営者保証に関するガイドライン」に基づき、誠実に対応してまいります。
- なお、平成27年上期の実績は下表の通りです。

平成27年上期の実績【平成27年4月1日～平成27年9月30日まで】

項目	件数
新規ご融資件数	9,139
うち、無保証融資件数	1,680 (注)
経営者保証に依存しないご融資の割合	18.38%

(注)滋賀銀行は経営者保証ガイドラインの趣旨に鑑み、保証金額にかかわらず、一部でも保証を頂いている場合は、「無保証融資件数」に計上しておりません。

経営者保証ガイドラインへの対応は、法人と経営者個人の資産・経理が明確に分離されていること、法人と経営者との資金のやりとりが、社会通念上適切な範囲を超えないこと、法人のみの資産・収益力で借入返済が可能と判断し得ること、法人から適時適切に財務情報等が提供されていること、経営者等から十分な物的担保の提供があること、等の要件を総合的に判断してまいります。

「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み(1)

ビジネスマッチングで「商流」の創出をサポートしています

エコビジネスマッチングフェア2015

- ・環境に特化した商談会「エコビジネスマッチングフェア2015」を、平成27年6月3日に開催。8回目の開催となった今年は、新エネ、省エネ、リサイクル、環境土木建築、環境ソリューション等の分野毎に89社・団体に出展いただきました。今回は「ヘルスケア」分野を新設するとともに、昨年に引き続き、「滋賀健康創生」特区ブースを設置。また、金融サポートコーナーでは「クラウドファンディング」の取組事例を紹介しました。



モノづくり企業ビジネスマッチングフェア

- ・当行を含めた地方銀行25行と日刊工業新聞社は、平成27年2月5日～6日に幕張メッセで「地方銀行プレゼンツ・モノづくり企業ビジネスマッチングフェア」を初開催。当行のお取引先4社にご出展いただきました。



地方銀行フードセレクション

- ・平成27年11月12日～13日に東京ビッグサイトにおいて「地方銀行フードセレクション2015」を地方銀行41行が共同開催。全国から585社の食品関連企業が出店し、当行のお取引先8社にご出展いただきました。



「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み(2)

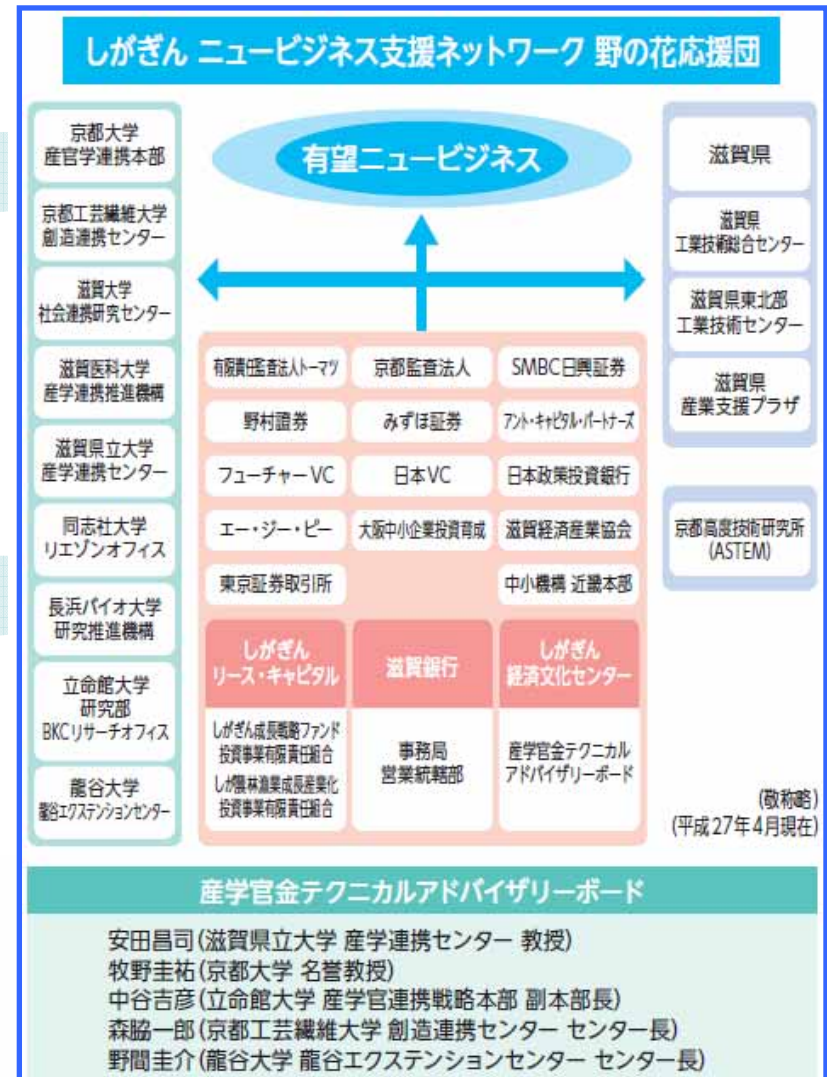
起業の夢を強力にサポートします

しがぎんビジネスフォーラム「サタデー起業塾」

- ・ニュービジネスの育成が地域金融機関の使命と考え、平成12年度より毎年「サタデー起業塾」を開催しており、平成26年度までの卒業生は、延べ2,058名にのぼります。
- ・平成27年度のテーマは「新たな成長を実現するニュービジネスの創出」とし、ニュービジネスおよび第二創業に取り組みお取引先を対象に、内容を充実させて開催しています。

「野の花応援団」と「ニュービジネスサポート資金」

- ・「産学官・金（金融）」の英知を結集した全国でもユニークな地域密着型のしがぎんニュービジネス支援ネットワーク「野の花応援団」を組織（平成14年）。
- ・起業や新分野への進出を目指しておられるお取引先に対し、技術評価を含めた経営のサポートや、ファイナンスツールのご提供、株式公開支援などを行っています。
- ・また、ニュービジネスサポート資金（通称「野の花資金」）では、ニュービジネスの「成長性」や「将来性」を目利きし、3,000万円を上限に原則無担保でご融資を行っています。



「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み(1)

アジアビジネスを積極的にサポートします

近畿で唯一海外に支店を有する地方銀行として

- ・当行は近畿で唯一、海外に支店を有する地方銀行として、香港支店で銀行業務を行っています。加えて、上海駐在員事務所、バンコク駐在員事務所、国際部アジアデスク、営業店のネットワークを活用し、お取引先のアジアにおける新たな拠点開設や販路拡大に向け、引き続きサポートしてまいります。

アジアでのしがぎんネットワークを強化

- ・海外進出先の投資環境や金融取引に関する情報の提供など取引先の海外進出をサポートする体制を強化するため金融機関等との業務提携を拡大しています。
- ・平成26年12月には「タイプラス1」の国として注目されるカンボジアのカナディア銀行（本店・プノンペン）と業務提携を締結しました。



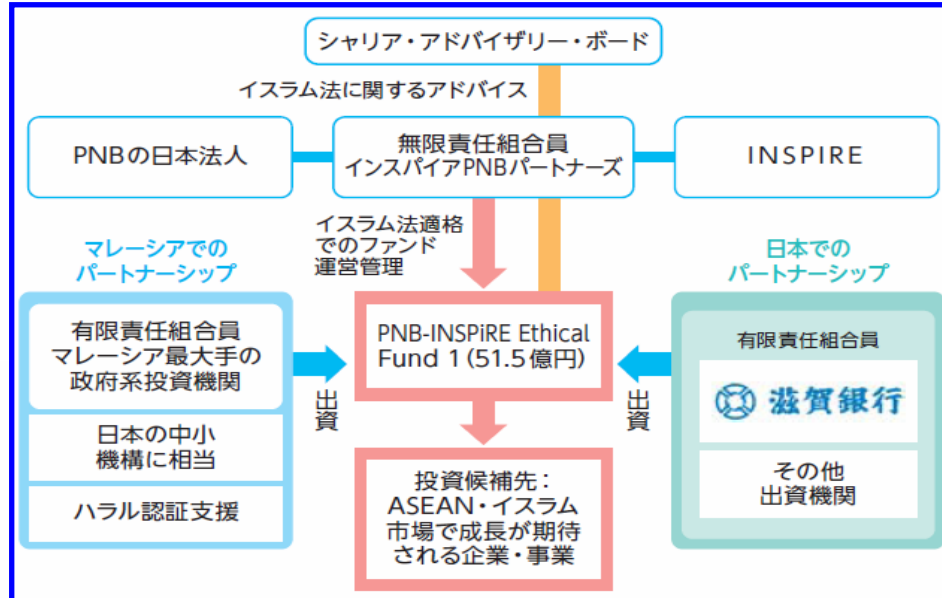
銀行名	提携・協力時期
①カナディア銀行(カンボジア:プノンペン)	平成26年12月
②ベトコム銀行(ベトナム:ハノイ)	平成25年12月
③香港貿易発展局(香港)	平成25年 9月
④メトロポリタン銀行(フィリピン:マニラ)	平成25年 7月
⑤タイ国投資委員会(タイ:バンコク)	平成25年 6月
⑥インドステイト銀行(インド:ムンバイ)	平成25年 2月
⑦バンクネガラインドネシア(インドネシア:ジャカルタ)	平成24年 9月
⑧バンコック銀行(タイ:バンコク)	平成20年11月
⑨カシコン銀行(タイ:バンコク)	平成20年11月
⑩中国銀行(中国:北京)	平成15年 6月
⑪中国工商銀行(中国:北京)	平成14年11月

「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み(2)

ハラール市場への取り組み

インドネシア、マレーシアなど世界約16億人のイスラム教徒向け市場が注目されています。当行は平成27年5月、一般社団法人ハラール・ジャパン協会と業務提携しました。近畿に本店を置く地方銀行初の取り組みです。また、ハラールビジネスを通じた企業育成を目的とする「PNB-INSPiRE Ethical Fund 1 投資事業有限責任組合」に参画しました。今後ハラール市場の開拓を展望するお取引先に対し、投資環境情報の提供やハラール認証 取得のサポートを行っていきます。

ハラール認証とは：イスラム教が摂取を禁じているアルコールや豚肉等を使用しないなど戒律を守って製造・加工・保管・運搬したことを証明するもの。



国内外でアジアビジネスの情報をご提供します

開催した主なイベント(平成27年4月～平成27年10月)

セミナー

しがぎんアジアセミナー

(平成27年6月、10月)

- ・アジアビジネスに関するアドバイスや最新情報のご提供。

アジア展開セミナー(平成27年9月)

- ・イスラム教やハラールの基礎、日本を訪れるムスリム観光客の受け入れ環境の整備に関する情報のご提供。

ハラール：イスラムの教えで許された「健全な商品や活動」を表します。

海外イベント

第7回「香港・華南地区 日系企業ビジネス交流会」(平成27年6月)

- ・最近の中国情勢と日系企業の動向に関する情報のご提供。

「チャイナビジネス セミナー&交流会in上海2015」(平成27年10月)

- ・中国でのビジネス展開に役立つ情報とビジネス交流機会のご提供。

「CSRのしがぎん」に関する取り組み(1)

CSR私募債

地域社会と子どもたちの「つながり」を応援します

平成26年11月にCSR私募債「つながり」の取り扱いを開始しました。

CSR私募債とは、財務内容等の厳しい適債基準を満たし、かつ当行独自の環境格付「PLB格付」にて一定水準の格付を得られた企業さまが発行されるものです。

CSR私募債発行時には、同私募債発行記念として、発行金額の0.2%相当額を当行が拠出し、図書やスポーツ用品など「子どもたちの学びや成長を応援する物品」を発行企業の希望を参考に、学校等へ寄贈します。同趣旨の私募債取り扱いは近畿の地方銀行で初めてです。

これまで本私募債の趣旨に賛同いただいた73社の企業さまがCSR私募債を発行され、当行より55の小学校等に879万円相当の寄贈品贈呈を行っています。(平成27年9月末現在)



● CSR私募債の仕組み

発行企業



滋賀銀行
SHIGA BANK



CSR私募債発行

贈呈

発行金額の0.2%
相当額の寄贈品を
滋賀銀行が寄付



学校

「CSRのしがぎん」に関する取り組み(2)

地球環境保全を真剣に考えています

● しがぎん琵琶湖原則 (PLB)

琵琶湖をはじめとする地球環境を守るため「しがぎん琵琶湖原則 (PLB = Principles for Lake Biwa) (以下、PLB)」を策定し、この原則への賛同をお取引先に広く呼びかけています。

● PLB 格付

「PLB」にご賛同いただいたお取引先には、当行が「環境を主軸としたCSR 経営に関する資料」に基づき、独自の評価基準により5ランク (L1 ~ L5) の環境格付の評価を行い環境保全への取り組みに役立てていただいています。

しがぎん琵琶湖原則 (PLB) の3原則

- ① 環境保全に役立つ生産・販売・サービス基準を策定します。
- ② 環境配慮行動とビジネスチャンスの両立を目指します。
- ③ 環境リスクを軽減し、持続可能な地域社会を実現します。

PLB 格付BD※

お取引先の生物多様性保全に向けた活動の支援を、との願いを込めて、当行独自の生物多様性格付を行っています。格付は「豊かな生物多様性の継承と自然共生社会の構築」に賛同し、格付取得を希望されるお取引先の「生物多様性配慮」の取り組みについて一定の指標により測定・評価します。

BD = biodiversity
(生物多様性) の略



琵琶湖原則支援資金 (PLB 資金)

環境や生物多様性の保全に取り組まれるお取引先へのご融資には、取組状況を把握して決定した「PLB格付」と「PLB 格付BD」に基づいて、最大年0.6%の貸出金利引き下げを行っています。平成27年9月末現在の同資金の融資実行額累計は1,770件、総額363億円となりました。



「CSRのしがぎん」に関する取り組み(3)

スポーツ応援定期「未来リーと」^{あす}

- ・滋賀県ゆかりの未来のアスリート^{あす}を応援する新商品「『しがぎん』スポーツ応援定期 未来リーと」の取り扱いを平成26年12月より開始しました。お客さまにお預け入れいただいた定期預金残高の0.005%相当額をアマチュアスポーツを支援する「レイクス・スポーツファンド」へ寄付するもので、滋賀県内のスポーツ振興を応援するとともに、地域スポーツ振興による地域活性化の後押しを行います。



平成27年9月24日、初めてとなる拠出金835千円を「レイクス・スポーツファンド」へ贈呈しました。

お客さまのご預金を社会貢献に役立てます

エコプラス定期

- ・滋賀県内小・中学校でのビオトープづくり資金の助成の取り組みが累計で33校、総額で1,579万円となりました。（平成27年9月末現在）環境対応型金融商品「『しがぎん』エコプラス定期」は、平成18年度から、お客さまがATM、インターネットバンキング、テレホンバンキングを利用し、定期預金を1回お預入いただくごとに当行が7円（不要となる申込用紙代の相当額）を積み立てて毎年拠出。子どもたちの「環境学習」をお手伝いしています。



「CSRのしがぎん」に関する取り組み(4)

地域に根ざした環境ボランティア活動を展開

外来魚駆除・釣りボランティア

平成27年5月17日(日)、草津市志那中湖岸緑地で6回目となる「外来魚駆除・釣りボランティア」を実施。琵琶湖本来のいきものを守るため、役職員とその家族203名が参加しました。釣果は544匹、18.5kg。これらは、堆肥に加工されます。



森づくりサポート活動

平成27年8月22日(土)、びわこ地球市民の森で「森づくりサポート活動」を実施。除草や枝打ちなどのメンテナンス作業を行うため、役職員とその家族506名が参加しました。この活動は平成15年10月より毎年行っています。



環境金融と生物多様性保全への取り組みを強化

「カーボンニュートラルローン 未来よし」

琵琶湖の環境と生態系保全を目的に、お取引先の温室効果ガス削減を促進する「カーボンニュートラルローン 未来よし」を取り扱っています。お取引先が環境対応型金融商品を活用して「太陽光発電システム」等を導入、削減した温室効果ガスの排出量を当行が推計し、排出権取引価格を参考に換算した金額を琵琶湖の固有種「ニゴロブナ」と「ワタカ」の放流事業の資金として拠出しています。



地域密着型金融の推進に関する数値目標および実績

地域密着型金融の推進に関する数値目標および実績について

地域密着型金融の推進に関し、当行が平成28年3月末までに目指す数値目標とその進捗状況は下記のとおりです。

「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」に関する取り組み

取組項目	平成28年3月末 目 標	平成27年9月末		地域密着型金融の推進に関する3つの視点		
		実績	進捗率(%)	お取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮	地域の面的再生への積極的な参画(地域経済への更なる貢献)	地域やお客さまに対する積極的な情報発信
1. 「ネットワークのしがぎん」に関する取り組み						
ビジネスマッチング商談件数	3,000 件	3,773 件	125.7%			
ニュービジネスサポート：コーディネート活動件数	150 件	231 件	154.0%			
事業性融資先お取引先数	18,000 先	18,897 先	104.9%			
事業性 評価	格付コミュニケーション・サービス実施先数(累計)	3,200 先	3,155 先	98.5%		
	経営改善計画策定支援先数(累計) 1	3,000 先	3,161 先	105.3%		
2. 「アジアに強いしがぎん」に関する取り組み						
海外ビジネスサポート件数 2	4,300 件	5,087 件	118.3%			
海外商談会、セミナー、ミッションの実施回数	30 回	40 回	133.3%			
3. 「CSRのしがぎん」に関する取り組み						
PLB資金、エコ・クリーン資金実行件数 3	600 件	540 件	90.0%			
エコプラス定期取り扱い件数、ネット投信電子交付サービス契約件数(合計)	500,000 件	368,013 件	73.6%			
ボランティア活動参加延べ人数	7,500 名	6,354 名	84.7%			

印は第5次長期経営計画の地域貢献目標として掲げている項目です。

- 1 経営改善計画には、当行所定の「ご相談シート」による簡易な計画も含まれます。
- 2 国際部アジアデスクおよび当行の海外拠点(香港支店、上海駐在員事務所、バンコク駐在員事務所)によるサポート。
- 3 PLB資金・・・「しがぎん」琵琶湖原則(Principles for Lake Biwa)支援資金。